

【県民まちなみ緑化事業の活用】

県民まちなみ緑化事業に申請をし、樹木の植樹や園庭全面の芝生化になった。植樹は四季折々に実るものを選んだ。初年度より実り、生長する過程を楽しみにし、自分で摘んで食べたり友だちと分け合って食べることも経験できた。また、果実を求めて野鳥が来たり、園庭の芝生化によりアマガエルやイナゴ等がよく来るようになる。ミカンにはアゲハチョウの幼虫がいた。また、四季折々の野菜作りも行い、キャベツにはアオムシもいた。

緑化事業の実施から、小動物を園に呼び寄せることができ、興味や関心を持ちながら触れ合うことができた。そして、命あるものとの関わりから自然の摂理を感じ、実りあるものを育て、愛でて味わうことができたと捉える。また、樹木（ジュンベリー）の収穫時には果実の濃い汁が手につき、手洗いをすると色水になった。そこから色水遊びになり、色の濃淡が生じることに気付き、自分の好みの色を求めながら、個の遊びから協同遊びへと広がった。そして、自然との関わりを通じて、感じたことや気付いたことを相手に言葉で伝えようとする姿が多くみられた。思いを共有することもできやすい場になったのではないかと捉える。

園庭の芝生の感触がよく、思いっきり駆けたり、でんぐり返しを楽しんだり等、自然に体を動かして遊ぶ姿が多くみられた。また、お弁当時には、ピクニック気分で食べることができ、転んでも痛くない安全性や開放的な空間は、幼児にとって居心地のよい安心のできる場でもあると考える。

園内の自然ある環境のもと、感性を働かせながら、そのもののよさや美しさ、不思議さを感じ、気付いたりしながら、試したり工夫したりすることなどを通じて育むことが重要と捉え、環境を活かしながらの保育に努めている。